

2025 年中国地域 U-18 審判員強化研修会報告

(一社) 中国サッカー協会審判委員会
ユース審判員部会長 辻村俊司

日 程 2025 年 2 月 15 日 (土) 12:45~16:45
場 所 広島大学南グラウンド (東広島ドリームフィールド) 東広島市鏡山 1-3-2
審判員 岡崎啓太郎 (広島県・高3)、生田賢太郎 (鳥取県・高2)、内田恭平 (鳥取県・高2)
指導者 辻村俊司 (ユース審判員部会長)、門原広憲 (ユース審判員部会鳥取県担当)
内 容 地域トレーニングキャンプ U-17 中国 2024 での試合における審判実技研修会

2 月 15 日 (土) に本年度 2 回目の中国地域 U-18 審判員強化研修会を広島大学南グラウンドで実施しました。昨年度までこの時期に実施していた中国地域 U-16 トレセンリーグが事業廃止となり、この度地域トレーニングキャンプを新たにユース審判員の強化の場として中国地域 U-17 と広島大学のトレーニングマッチ (30 分×3 本) に 3 名の審判員で主審と副審の実技研修をおこないました。

今回の研修会の狙いとして、審判員それぞれ次のステージに向けブラッシュアップを図ることを掲げ、研修会のテーマはこちらからは設定せずに各審判員にテーマを決めてもらいました。「幅を取った動きと位置取り」、「予測を心掛けたポジショニング」「予測した動き出しでペナルティエリア付近の事象をきちんと見る」とそれぞれテーマに沿ってレフリングを行いました。トレーニングマッチとはいえ互いのプライドをかけた、攻守の切り替えが早い強度の高い白熱した試合となりました。また、今回の試みとして大学生の 2 級審判員にゲームの中盤 5 分程度シャドーとして入ってもらい、動き出すタイミングやポジショニングの違いを比較してみる企画をしました。

試合後、審判員と大学生審判員、審判指導者が試合の振り返りをおこないました。良かった点は、試合展開に慌てることなく、落ち着いて正しく判定できたことや判定基準がこの試合にフィットしていたこと、試合後の審判員の自己分析的だったことです。課題としてシャドーで明らかになった通り、動き出しのタイミングの遅さ、争点や何か起きそうな場所との距離が遠い場面が多く見受けられました。研修会の最後に今回の責任者である塚越中国高体連技術委員長より「シャドーに入った大学生とポジショニングが少し異なっていたのは興味深かった。判定は今日の試合に合っており、見る側もプレーしている選手もストレスなくサッカーができた。」と審判員に講評をいただきました。トレセンコーチからは同年代の試合を審判することの素晴らしさや一生懸命取り組んでいる審判員に対して評価していただきました。新シーズンのステージにおいて「魅力あふれる審判員」を目指し、中国地域の審判活動においてさらなるレベルアップを期待したいと思います。

最後に今回の研修会に審判員を派遣していただいた審判委員会、大学生審判員を派遣していただいた広島県学連審判部、研修会の場を提供していただいた広島大学および地域トレーニングキャンプ U-17 中国運営担当者の塚越先生、各県チームスタッフの方々のご理解とご協力にお礼申し上げます。

2025 中国地域 U-18 審判員強化研修会に参加して

広島県 (岡崎啓太郎)

今回の研修会では、「幅をとったポジショニング」を自身のテーマとし、レフェリングを行いました。広島大学対中国 U-17 の高い強度やスピードの中、予測をして幅を広くとったポジショニングをすることを意識しました。今回の研修会には、広島国際大学 1 年で 2 級審判員の松元清惺さんが参加してくださり、試合途中でシャドーとして入っていただき、同じフィールド上を走りました。松元さんは、動き出しがとても早く、置いていかれることが多くありました。試合後松元さんから、予測をするときは選手の動作からその後どのようなプレーをするのか汲み取る力をさらに身につけていく必要があるとアドバイスをいただきました。今回の研修会で、感じた松元さんとの動き出しの早さの違いや、予測のポイントなどを今後のレフェリングに活かし、成長していきたいと思えます。

鳥取県（ 生田賢太郎 ）

今回は、日本高校選抜の試合を経験させて頂いた後だったため自分のレフェリングが大学生の試合でどの程度通用するのかを確認できる機会だと思い参加しました。しかし、二級の方にシャドーに入っていただき幅を取るレフェリングや、初動のスピードが遅いことなど、まだできていないことがあるということに改めて気がつきました。一方で、自分のストロングポイントであるスプリントは強度の高い大学生の試合でも通用することが分かりました。

今後は更に経験値をあげていくことで、課題を克服することに努めていながら、ストロングポイントを増やしてどんな試合にも対応できるレフェリングを目指して取り組んでいきます。

鳥取県（ 内田恭平 ）

今回、大学生の松本さんにシャドーに入ってもらって気づいたことは3つあります。1つ目は、自分が予測しているところより先を予測してポジションをとっているところでした。地元でもインストラクターの方に1手,2手先を予測してポジションをとれと言われていました。松本さんにシャドーに入ってもらうまでは自分なりにできていたと思うんですけどシャドーに入ってもらって自分は予測できてなかったんだなと思いました。2つ目は、常にステップを踏んでポジションをとっているところでした。1つ目の事にも繋がると思うのですが、ステップを踏むことによって次の動作に繋げやすいと思います。そうすることによって巻き込まれることや争点に遅れないと思います。3つ目は、横の動きが足りず幅がとれていないことです。ボールが横に動いたときに僕の横の動きが足りず松本さんに何度も追い越されていました。

